

平成26年3月26日

沖縄県教育庁  
教育長 諸見里 明 様  
沖縄県土木建築部  
部長 當銘健一郎 様

古都首里のまちづくり期成会  
会長 石川 秀雄  
NPO 法人首里まちづくり研究会  
理事長 大城裕美



#### 龍潭周辺の樹木の整備等の要請

古都首里のまちづくり期成会は、中城御殿の復元をはじめ歴史的建造物の復元及び「歴史が薫る風格ある文化都市づくり」を目的に活動を展開しております。

平素は、龍潭線街路修景事業など古都首里のまちづくりに取り組んでいただき、大変ありがとうございます。おかげさまで山川町から鳥堀町までの龍潭通りは、歩車道の整備が進み、赤瓦の民家も増え、日を追うに従い首里らしさを感じられ、あとは電柱の撤去や街路樹などの植栽の整備による緑陰が待たれる今日この頃です。

「安国山樹華木之記」によると、尚巴志の命を受け国相懷機が中国にならって池を掘り、政務の余暇、休息のところとし、山には松柏などの木、花果、薬木を植え、国の人士とここに遊覧宴集する事が出来るようにしたと言います。

また、龍潭及び松崎馬場では、中国からの冊封使が来琉の時に「重陽の宴」が開かれ、爬竜船見物のため棧敷席が設けられたと伝えられています。

しかしながら、首里城周辺の樹木は、戦災によってほとんどが焼失し、現在みられる樹木は以前の景観の復旧に意識が及ばず、戦後緑化運動などで植栽されたものであると聞き及んでいます。

戦後68年を数えた今、沖縄県において「中城御殿跡地整備検討委員会」を設置し、中城御殿及び松崎馬場の復元も検討されており、その中で、

- ① 松並木を中心とした歴史的風致景観の再生、
- ② 住民の憩いの場としての「道広場」の形成、

③ 中城御殿、龍潭と西海道と一体となった復元整備  
が検討されているとお聞きしております。

このように龍潭周辺が整備されていく中で、次の課題があります。

① 円鑑池の周辺の石垣、沖縄県立芸術大学の南側石垣近くに戦後植栽された樹木が大きくなり、石垣を壊している。

② 中城御殿の正門付近から首里城を見ると、龍潭北側にある大きなアコウ、デイゴの木などが視界をさえぎっている。

③ 円鑑池の石垣の下部の一部が崩落している

④ 円覚寺総門前の水はけが悪く、雨後は水溜りができ歩きにくい。

以上4点について調査の上、解決をお願いいたします。



